

各グループで議論された案への「良い点」と「気になる点」の要点をまとめました。

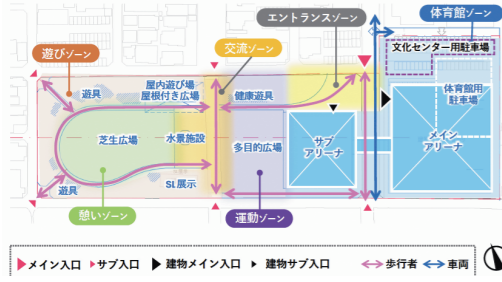
Good! 良いところ

Hmm. 気になるところ

A | 体育館観客席充実案

- ・豊富な観客席数により大規模イベントに対応できる
- ・分棟配置により大会と市民利用を両立しやすい
- ・メインアリーナを2階に置くことによる浸水対策 など

- ・公園側への建物配置による圧迫感や風通しの悪化など、周辺環境への悪影響の心配がある
- ・大会運営や施設間移動の不便さ
- ・災害拠点としての使いにくさ
- ・既存樹木の伐採に伴う公園オープンスペースの減少 など



B | 既存体育館利用継続案

- ・代替施設がない中で、日常の利用や大会を途切れさせずに整備できる
- ・規模に対してコストが低い
- ・メインアリーナが1階にあり運営しやすい
- ・大規模イベントに対応できる観客席数 など

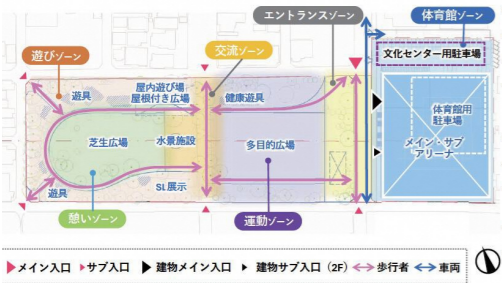
- ・公園のオープンスペースが最も小さい
- ・既存樹木の伐採が多い点
- ・公園側に大きな建物が配置されることで生じる圧迫感がある
- ・花火が見えなくなる心配
- ・浸水時の防災面への懸念
- ・サブアリーナの必要性 など



C | 公園スペース充実案

- ・公園のオープンスペースを最も広く確保できる
- ・既存樹木を多く保全可能
- ・「緑を守りたい」意向や市の方針と合致していること
- ・分かりやすい動線
- ・開放的な景観
- ・広場でのマルシェなどの活用への期待 など

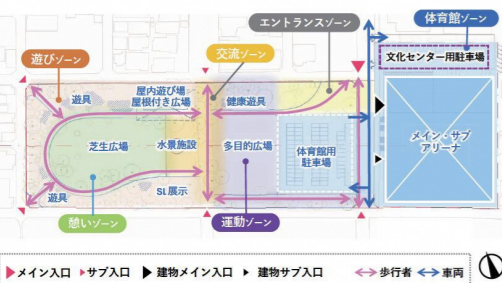
- ・メインアリーナが2階のため大会運営や災害物資拠点として使いにくい
- ・体育館の利用継続が出来ない
- ・大会利用と市民利用の両立の難しさ
- ・観客席の少なさ
- ・駐車場不足 など



D | コストを抑えた案

- ・将来の市民負担を考慮した際、建設費とランニングコストを最も安く抑えられる
- ・敷地がコンパクト
- ・運営のしやすさ
- ・動線の分かりやすさ
- ・既存樹木を多く保全できる など

- ・公園入口付近への駐車場配置による景観の悪化
- ・オープンスペースの減少
- ・歩行者と車の動線の交錯
- ・排ガス問題への心配
- ・体育館の利用継続が出来ない
- ・観客席の少なさ
- ・アリーナや諸室が手狭にならないかなど



NEWS LETTER

3

荒川公園周辺再整備ニュースレター 2026年5月発行 vol.

第2回・第3回ワークショップを開催しました

2026年1月31日(土)と3月28日(土)に「みんなで作ろう！新市民体育館・新荒川公園ワークショップ」を開催いたしました。各回40名前後の方にご参加いただき、創造したい価値やモデル比較検討案4つに関する気になるところ・良いところなどについて意見交換をいたしました。概要をご報告いたします。



第2回 開催概要

開催日時 2026年1月31日(土)
14:00~17:00
参加人数 41名
開催場所 ハートピア会議室

プログラム

- 1 開会あいさつ・本日の進め方
- 2 第1回の振り返り・検討状況説明
 - ・第1回のワークショップの振り返り
 - ・検討状況説明(モデル比較検討案など)
- 3 グループワーク
 - ・検討状況説明を踏まえた意見交換
- 4 発表・まとめ



第3回 開催概要

開催日時 2026年3月28日(土)
14:00~17:00
参加人数 36名
開催場所 ハートピア会議室

プログラム

- 1 開会あいさつ・本日の進め方
- 2 第2回の振り返り・検討状況説明
 - ・第2回のワークショップの振り返り
 - ・検討状況説明 その他
- 3 グループワーク
- 4 発表・まとめ



事業の進捗状況を報告する説明会を開催しました

2026年3月8日(日)に「みんなで作ろう！」新市民体育館・新荒川公園説明会を開催しました。質疑の内容や、発表資料については、左下の二次元コードからご覧いただけます。

最終回となる次回のワークショップは7月に開催予定です。並行して、分科会や協議会の取組も推進中です。次回発行は夏頃の予定です！

この事業に関する情報



熊谷市ホームページはこちらの二次元コードから閲覧できます

お問合せ

熊谷市 総合政策部 スポーツタウン推進課
TEL 048-524-1760
MAIL sportstown@city.kumagaya.lg.jp



検討状況説明

1. 調査結果のご報告

新施設整備に向けて騒音調査、交通量調査の結果を報告しました。

2. 将来の利用シーンと再整備の目標（案）

アンケートやワークショップの意見から導かれた、想定される9つの利用シーンを提示しました。また、再整備の目標（案）として、以下4つを紹介しました。

- ・熊谷駅南口エリアの新たな「顔」となり、多様な活動や交流を育む
- ・市民とともに豊かな緑を継承し、日常の暮らしを豊かにする
- ・“する・みる・ささえる”で関われる、市民のスポーツ振興の拠点となる
- ・誰もが安心して利用でき、災害時に地域の安全を支える

共通	①誰もが気軽に体を動かす	②居心地の良い空間でくつろぐ	③みんなで災害に備える
体育館	④スポーツ教室に日常的に参加する	⑤スポーツ大会に出場する・サポートする	⑥スポーツ・イベントをみて楽しむ
公園	⑦豊かなみどりに囲まれ自然を感じる	⑧子どもがのびのびと遊ぶ	⑨季節感を楽しむ

3. 施設配置の4つのモデルプラン案

寄せられたご意見を踏まえ、体育館・駐車場・公園オープンスペースの配置について、4つのモデルプラン案を提示しました。

- A案（体育館観客席充実案）
- B案（既存体育館利用継続案）
- C案（公園スペース充実案）
- D案（コストを抑えた案）

4. 民間事業者からの意見（プレサウンディング調査）

体育館や都市公園の運営経験を持つ民間事業者にサウンディング調査を行いました。観客席数、駐車場、荒川緑地との連携、環境・防災対策などについて事業者の見解をまとめました。詳細は熊谷市のホームページをご覧ください。

5. 協議会で明らかにする再整備の論点の整理

再整備を進める上で解くべき課題について共有しました。

6. 周辺まちづくりの状況

かわまちづくり、熊谷駅南口エリアでの検討状況を共有しました。

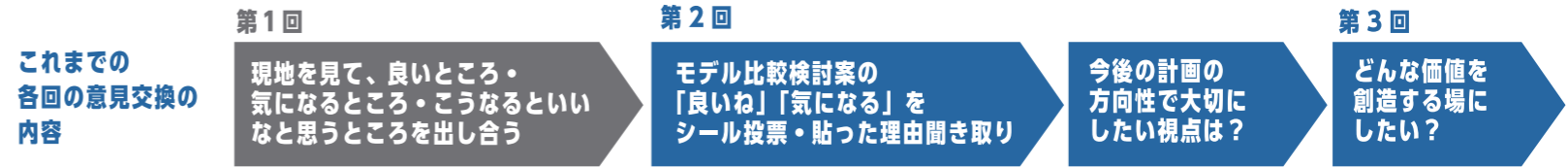
7. 事例紹介及び追加意見収集についての報告

「体育館 × 公園」の新しいあり方について、おおむたアリーナやおにクルなどの事例を紹介しました。また、2～3月に実施した、3回の追加の意見収集の報告を行いました。

グループワーク

第2回では、各グループで4案の「良い点」と「気になる点」を議論した後、今後の計画の方向性について大切にしたい視点をまとめました。

第3回では、これまでの意見交換結果から導いた「3つの価値」を柱に、荒川公園・市民体育館一体のエリアがどんな場を創造できるか、意見交換しました。議論を踏まえて、生み出したいシーン、大切にしたいポイントを出し合いました。こちらでは内容の抜粋版をご報告します。



ワークショップを通して整理した「3つの価値」

<h3 style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px;">横断的な価値</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● シビックプライド ・自分たちのまちに誇りを持てる ● 市民主体 ・市民が主体となる 	<h3 style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px;">① 将来を担う、熊谷市のこどものための場にしよう</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 人口減少 ・将来（40～50年後）のニーズを考えて、何が必要か考える ・人口減少も想定される中で熊谷市の財政にあったものを考えたい ・人口減少した将来を見据え、次世代に負の遺産とならない施設 ● こどもの体験 ・子どもが一流のスポーツに触れられる場になると良い
<h3 style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px;">② 地域が一体になり、まちの資源や取組との相乗効果を生み出す場にしよう</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 一体的なまちづくり ・駅側から河川敷へ行く動線や施設へのアクセス動線など、まち全体の動線を考えた方が良い ・駅・公園・体育館エリア・川までの一体的な活用と駅近という立地を生かし熊谷の「顔」となる魅力ある環境に 	<ul style="list-style-type: none"> ・本物のスポーツ選手と触れ合えることで世界を目指す環境を応援する ・子どもたちが使えるスケボーパークやボルダリングなどのニュースポーツができると良い ・新しいスポーツができるような広場や体育館になってほしい ・プレーパークのように遊べる ・若年層が様々なスポーツを体験できる ● 市民のための場 ・誰もが平等に自由に利用できる
<h3 style="background-color: #f0f0f0; padding: 2px;">③ 自然災害、酷暑、防犯などの地域課題の解決につながる場にしよう</h3> <ul style="list-style-type: none"> ● 避難所としての活用 ・平常時は防災体験、災害時は避難所として活用 ・駅近の利便性を生かして誰もがアクセスしやすく利用でき、避難所にもなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一体整備によって街の目玉になるような体育館になると良い ・まちのなかの動線をしっかり検討し、混雑にならないアクセスを考えたり、まちのなかにある店舗や拠点と連携し、まち全体が盛り上がるような計画にしてほしい ・他の周辺施設と駐車場を集約して公園・体育館の空間を充実させる ・隣接する小学校や文化センターも含めた価値づくり

- ・市民にとって使い勝手の良い施設であること
- ・何のため、誰のために体育館をつくるのか明確にする必要がある
- ・前回のパブコメや近隣住民など、市民の意見を大切に受け止めながら計画を検討してほしい
- ・新しい価値を提供する空間に
- ・利用料を抑えて誰もが負担なくたくさん使える
- **多世代**
・小さな子どもと一緒にでも気軽に利用できる
- ・子どもから大人まで、心も体も健やかに育ち体力を維持できる
- ・球技や自転車の練習ができる今の豊かな景色が残されている
- ・日常の何気ない楽しみを見つけられる
- **魅力ある場**
・交通手段やランドマークの整備等により市内の子どもたちが集まりやすい
- ・民間企業や市内の公共施設などとの連携で多様なスポーツを誘致し地域の魅力向上につながる
- **アート・歴史文化**
・アートや地域の歴史文化にも触れられる
- ・e-スポーツや書道、美術や音楽などスポーツ以外にも様々な体験ができる

- **多様な過ごし方**
・多様な世代がコミュニケーションをとったり、多様な楽しみ方が日常的にできる
- ・河川敷での BBQ などみんなが参加できるイベントがあり1日過ごせる
- ・ペットを連れて利用できる
- **有効活用**
・今ある施設や機能を最大限に有効活用
- ・市外からも人が集まり、施設運営費を稼いだり地域の商業が潤う
- **みどり**
・自然と施設のバランスが取れている
- ・みどりをキーワードに有名デザイナーを起用したりみどりのある場づくり
- ・大木を生かした景観や涼しさ
- ・みどりや風の流れを生かしてまちを涼しくする
- ・みどりあふれる環境
- ・涼しい今の環境を大切に

- **健康**
・心の健康を保てる
- ・医療費の削減や人口流入にもつながるような使いやすい施設で健康寿命を伸ばせる
- ・浸水時に防災機能が高い拠点に
- ・浸透性のある地面で豪雨対策されている
- ・水害や地震などのリスクがあってもこのエリアで安心して暮らせる
- **環境配慮**
・排熱を考えて、風の通り道をつくってほしい
- ・施設配置や緑化により酷暑を和らげ、天候に左右されずに快適に使える
- ・ミスト、シェード、みどりを組み合わせ南口から川まで自然の魅力あふれる
- ・暑い日でも屋内外でのびのびと遊べる
- ・環境負荷を抑え、ランニングコストも優れた施設運営がされている